

るが、(22a)の形容詞は主語についての本質的な性質を記述 (DESCRIPTION) する。したがって、一時的ではない (ATEMPORAL) 性質を述べるといって *tough*-type とは本質的に異なる。ここで (22a) の種類の形容詞を永続的 (PERMANENT) という意味特徴としてとらえないのは、to 不定詞の主語が *slow* である時の行為の種類を限定しており、「永続的」ということができないからである。

(23b) は、感情 (EMOTION) を表す形容詞が使われ、to 不定詞はその感情が生じた原因を述べるものである。

4.2 心的態度形容詞の下位区分

心的態度形容詞の一部を下位区分してリストする。*apparent*-type は *it is Adj. that* のパターンをとる。話し手の命題に対する確信 (CERTAINTY) あるいは非確信 (UNCERTAINTY) を表す。*that* 節は確信の意味の形容詞に後続し、*wh* 節は非確信の形容詞に後続する。*apparent*-type をリストする。

apparent-type: *apparent, certain, clear, evident, impossible, likely, obvious, plain, probable, possible, true, unlikely, well-known, etc.*

sure-type は人主語をとって、NP *is Adj. that* のパターンをとる。命題に対する文主語の確信 (CERTAINTY) を表す意味をもち、*that* 節は事実 (FACTIVE) であることが前提である。また否定文になると文主語の非確信 (UNCERTAINTY) を表し、*that* 節の代わりに *wh* 節が使われる。*sure*-type をリストする。

sure-type: *assured, aware, certain, confident, conscious, convinced, ignorant, positive, relieved, sure, etc.*

important-type は *it is Adj. that* のパターンをとるが、*that* 節の中の動詞は仮定法現在あるいは *should* をとる。これは、形容詞が話し手の聞き手に対する指示 (COMMAND) を与える意味を持っているからである。*important*-type をリストする。

important-type: *advisable, compulsory, essential, imperative, important, indispensable,*

necessary, urgent, vital, etc.

afraid-type がとる *that* 節は、まだ実現していないことを述べるために *will, would* などの法助動詞をとる。ただ *important*-type とは異なり、今後起こることを予測する意味からくる特徴で、*afraid*-type は前望的 (PROSPECTIVE) という特徴をもっていることができる。*afraid*-type をリストする。

afraid-type: *afraid, apprehensive, desirous, doubtful, eager, fearful, positive, solicitous, worried, etc.*

4.2.1 確信 (CERTAINTY) と非確信 (UNCERTAINTY)

人を主語にとり、主語の命題に対する心的態度を表す形容詞 *certain, sure* などは *that* 節をとるが、否定形の *uncertain, not sure* は *wh* 節をとる。これは、*that* 節が一種の確信をもっている場合の表現であるのに対して、*uncertain, not sure* などは確信がない、未決断の状態の表現であるからである。ここでいう確信をもっているか未決断であるかの問題に限って言えば、*not certain* と *uncertain* の間に区別はない。

- (24) a. I am not *sure* whether he will come or not.
b. I am *sure* that he will come.

4.2.2 客観 (OBJECTIVE) と主観 (SUBJECTIVE)

4.2.2.1 *it* 主語と人主語

次の文を考えてみよう。

- (25) a. It is *apparent* that John likes Mary.
b. It is *important* that you be present at the meeting.
c. It is *dangerous* for John to swim across the river.
(26) a. I am *sure* that you are sick.
b. I am *afraid* it will rain.

(25)(26)にあげた文は、すべて *that* 節あるいは *for...* *to* で表された陳述の内容に対する話し手の感情あるいは意見を述べている。これらの文で使われている形容詞は心的態度 (ATTITUDE) の意味をもっている。それではなぜ *apparent, impor-*